

都市再生整備計画 フォローアップ報告書
JR船橋駅周辺地区

平成26年3月

千葉県船橋市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4 - 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	交通渋滞の緩和	混雑度	1.82	1.50	1.62	確定 見込み	あり なし	1.57	H25年11月		337号線の供用開始により、一定の効果が発現した。 改善策はそのまま改善策に補強が必要新たに改善策をたてる	事後評価・フォローアップそれぞれの時点において、交通渋滞がある程度緩和されたが、目標達成には至らなかった。一部道路の未完成部分があることが目標未達成の要因であると考えられる。	
指標2	3駅定期外乗客数	人/日	80,833	84,000	81,704	確定 見込み	あり なし	83,512	H24年4月～ H25年3月		第1期計画が完了し、事業の効果が発現したことにより定期外乗客数が増加した。 改善策はそのまま改善策に補強が必要新たに改善策をたてる	各種事業の相乗効果により、平成20年度までは定期外乗客数(来街者)が増加しており、ある程度の効果があったと考えられる。また、目標未達成の原因は未完成事業であると考えられる。	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2- から転記 全ての指標について記入

フォローアップの必要のある指標について記入

全ての指標について記入

様式4 - その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	乗り換え時間	分	4.43	/	2.33	確定 見込み	/	/	H 年月	/	改善策はそのまま改善策に補強が必要新たに改善策をたてる	京成線の連続立体交差事業に合わせた京成線接続デッキの整備等により、乗り換えを行う歩行者の経路がデッキ上に変化し、駅利用者の安全性や快適性が向上した。	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2- から転記 全ての指標について記入

フォローアップの必要のある指標について記入

全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4 - 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5 - に記載した 今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために 行う方策	公共交通の利用促進	駅の利便性を向上するため、第2期計画においてJR船橋駅南口 ペDESTリアンデッキの整備を実施中である。		
	案内の充実	JRホテル等が工事中のため、今後案内板設置の協議を検討す る。		
改善策 ・まちづくりの目標を達成するた めの改善策 ・残された課題・新たな課題への 対応策 ・その他 必要な改善策	駅へのアクセスを含む都心道路ネットワークの形成	第2期計画において、街路事業(3・3・7号線、3・4・11号線)を引き 続き実施中である。		
	歩行者・自転車利用者が安全かつ快適に利用できる 施設の整備	第2期計画において、駅への接続デッキや駅へアクセスする歩 道、自転車等駐車場の整備を実施中である。		
	市街地の魅力・質の向上	第2期計画において保健・医療・福祉サービスの連携を推進する 拠点として(仮称)保健福祉センターの整備を実施中である。		

事後評価シート 添付様式5 - から転記

様式4 - フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項

都市再生整備計画(第5回変更)

JR船橋駅周辺地区

千葉県 船橋市

平成24年 3月

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	千葉県	市町村名	船橋市	地区名	JR船橋駅周辺地区	面積	47 ha
計画期間	平成 19 年度 ~ 平成 23 年度	交付期間	平成 19 年度 ~ 平成 23 年度				

目標
本市の玄関口に相応しいにぎわいと活気にあふれた中心市街地の創出
目標1: 駅へのアクセスを含む都心交通ネットワークの構築 目標2: 歩行者・自転車利用者が安全かつ快適に利用できる施設整備

目標設定の根拠
まちづくりの経緯及び現況
<p>JR船橋駅周辺地区は、JR総武線・京成本線・東武野田線の鉄道3線が乗り入れており、JR船橋駅・京成船橋駅・東武船橋駅の3駅の一日平均乗降客数は約46万人を数えるとともに、10路線34系統のバスルートをもつ、県内有数の交通ターミナルとなっている。駅北口においては、2つの市街地再開発事業が施行され、駅前広場の地下には563台を収容する船橋北口駐車場、その上部にはお祭り広場のあるペDESTリアンデッキが整備されている。一方、駅南口においては、再開発事業による施設建築物(FACE)が平成15年3月に完成し、これに先立ち事業着手された京成線連続立体交差事業も、千葉県により実施されているところである。</p> <p>当該周辺地区における主要な都市施設としては、駅北口に天沼弁天池公園(面積約0.94ha)、中央保健センター、南口には中央公民館、市民文化ホール、中央図書館、勤労市民センターといった公共公益施設が点在し、完成した南口再開発ビルには、ミニ市役所としての機能を持つ「総合窓口」や「市民活動サポートセンター」といった市民生活の利便性向上を図るための施設等が設けられている他、同再開発ビル内にミニコンサートや講演会等幅広く利用可能な「文化創造館」(きららホール)が設けられ、本町通り交差点の再開発ビル(スクエア21)には「市民ギャラリー」、「茶華道センター」が設けられるなど、産業・文化・情報等の都市機能が多様に集積する交流拠点としての整備が図られているところである。</p> <p>また、駅へのアクセスや地区内外の交通の円滑な処理を図るため、3・3・7号線や3・4・11号線といった都市計画道路や、南北駅前広場(北口:面積約1.14ha、南口:面積約1.17ha)が都市計画決定されている。なお、船橋駅周辺においては、市民と協働によるまち歩き等を実施しており、市民意向を反映した交通安全対策や道路等のバリアフリー化を推進する事業計画が策定されている。</p>
課題
<p>JR船橋駅周辺地区は、産業・文化・情報等の都市機能が多様に集積する交流拠点としての整備が図られつつあるが、駅へのアクセス道路を含む都心道路ネットワークの整備や歩行者・自転車利用者が安全かつ快適に利用できる施設等の整備が課題となっており、以上述べた各種事業を効率良く一体的に推進することにより、本市の玄関口に相応しいにぎわいと活気にあふれた中心市街地の創出を図る必要がある。</p>
将来ビジョン(中長期)
<p>平成12年3月、「生き生きとしたふれあいの都市・ふなばし」をまちづくりの目標とした「船橋市総合計画」を策定し、当該地区は「産業・文化・情報等の都市機能が多様に集積する交流拠点として、賑わいのある中心地区としての整備を図る。」こととしている。</p> <p>平成13年2月、「船橋市都市計画マスタープラン」を策定し、当該地区は「広域的な商業機能などの集積を高め、個性豊かな商業地としての形成を図るとともに、中心市街地の再構築を図り、にぎわいと活気にあふれた船橋の玄関口を目指す。」こととしている。</p> <p>都心道路ネットワークの構築 … 都市計画道路の整備 安全・快適な歩行空間等の整備 … 京成線接続デッキ、歩道の整備等</p>

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
交通渋滞の緩和	混雑度	地区周辺の国・県道等主要幹線道路の混雑度 【指標: 3路線の平均混雑度】	都心道路ネットワークの構築により、地区周辺における主要幹線道路(国道14号線、船橋・我孫子線、夏見・小室線)の混雑度を低減させる。	1.82	平成17年度	1.5	平成23年度
3駅定期外乗客数	人/日	3駅(JR船橋駅、京成船橋駅、東武船橋駅)の定期外乗客数(来街者数) 【指標: 3駅の合計値】	安全・快適な歩行空間等の整備等により、来街者を増加させ、にぎわいと活気にあふれた中心市街地を創出する。	80,833	平成16年度	84,000	平成23年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅へアクセスする都市計画道路や駅周辺を南北に縦断する都市計画道路を整備することにより、都心道路ネットワークを構築し主要幹線道路の交通渋滞の緩和を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(基幹事業 街路) 3・3・7号線他1線整備事業、3・4・11号線整備事業 ・(関連事業) 京成本線連続立体交差事業、3・3・7号線整備事業、3・4・11号線整備事業、3・4・13号線整備事業、3・4・18号線整備事業
<p>整備方針2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅への接続デッキや駅へアクセスする歩道を整備することにより、歩行者や自転車利用者の安全性や快適性を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(基幹事業 高次都市施設) 京成線接続デッキ設置事業 ・(基幹事業 街路) 3・3・7号線他1線整備事業、3・4・11号線整備事業 ・(関連事業) あんしん歩行エリア形成事業、交通バリアフリー道路特定事業、3・3・7号線整備事業、3・4・11号線整備事業、3・4・13号線整備事業、3・4・18号線整備事業
<p>その他</p>	

